

府中市市民協働推進行動計画の全体総括と課題

●全体総括（進展、良かった点）

本行動計画の推進方策は、①ひとづくり、②コミュニケーションづくり、③システムづくりの3つに大別され、具体的な施策として35施策を実施しました。

各施策の評価結果については、「A. 計画以上の達成」（2件）と「B. 計画通りの達成」（33件）ですべてを占め、他方で、「C. 計画通りに達成することができなかった」及び「D. 全く達成できなかった」が0件となり、4年間の進捗状況は全ての施策が達成し、人材の育成等、市民協働の基盤の整備づくりも進展しました。

また、「府中市市民協働の推進に関する基本方針」及び「市民提案型協働事業提案制度」については、社会情勢の変化により、現状に合わせた見直し等を行うとともに、計画の後半がコロナ禍であったことを想起すると、市民・行政との協働がオンラインや動画配信などの工夫を凝らし、粘り強く進められてきたことやコロナ禍をきっかけとして市民活動においてもDX（※）の取組が推進しました。

施策一つ一つに「協働」を推進したいという思いや協働事業を始めやすくするための方策が盛り込まれており、その施策が達成されたことにより、府中市に「協働」が一段と広がり、次の段階へ進むきっかけになると考えられます。

※DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること」をいいます。

本行動計画に基づき行われた施策について、総括も踏まえ、次のとおり課題を整理しました。

●課題

毎年度の具体的なデータが示されておらず、「4年間の総括」でのみ数値データが示されている施策も多々見られました。施策によっては難しいものもありますが、毎年度のデータの積み重ねで総括の数値が算出されるため、毎年度のデータをきちんと示し、目的や達成状況を振り返ることができるよう、目的を達成できたか否かを可視化することが望まれます。また、施策間で情報量に差があるため、その差をなくするための最低限の必須事項の記入と事業ごとの独自性を評価する観点も必要と考えます。

啓発・PR活動のための施策や、人材育成の講座、イベントの内容は工夫され、たくさんの施策を実施し、達成されていますが、一部の市民がいくつもの協働事業を抱えている印象で、より多くの市民に参加してもらうため、参加者の特徴を把握し、工夫していくことが必要です。

「協働」という言葉を知らない市民も少なくないと思います。府中市の協働の定義を踏まえ、市民の困りごとの解決や、やりたい取組の実行は「協働」で取り組めるという意識・雰囲気づくりを行い、「協働」のハードルを下げていくための情報発信についても工夫することが必要です。

今後は、協働事業を行っている団体や事業者との連携のきっかけとなるような交流の場づくりが必要であるとともに、「府中市市民協働の推進に関する基本方針」に記載している、「府中市が目指す市民協働の姿と今後の方向性」の7項目について一段と推進していくことが課題となります。